

主 な ト ピ ッ ク ス

平成 30 年 7 月豪雨に係る水道施設の被害及び復旧について

平成 30 年 7 月豪雨では、梅雨前線の停滞・強化や局地的な線状降水帯の形成により、7 月 5 日から 8 日までの 4 日間で 7 月の平均雨量を大幅に超える集中豪雨となり、南予地域を中心に県内各地において、広範囲にわたり、河川の氾濫による浸水、土砂崩れ等が発生しました。水道施設についても、県内各所で被災し、特に、宇和島市、大洲市、西予市では、大規模な断水が発生しました。平成 30 年 7 月豪雨災害による断水は、最大で 12 市町、31,068 戸、63,856 人に及びました。



浄水場(下川浄水場)の埋没
(西予市下川浄水場)



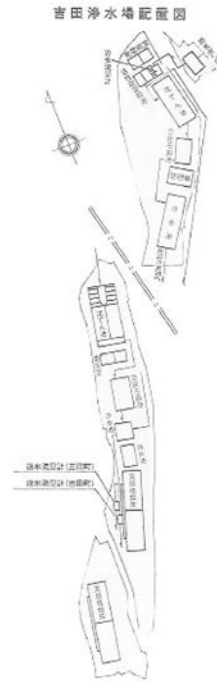
配水管の損傷(大洲市名荷谷簡易水道事業)

○吉田浄水場の復旧について

7 月 7 日未明、前日からの降雨が激しさを増し、午前 7 時ごろ、宇和島市吉田町立間の吉田浄水場北側で土石流が発生しました。土砂及び流木により新旧 2 つの浄水場が埋没するとともに管路が流失したことにより、吉田浄水場はその機能を完全に喪失し、宇和島市三間・吉田地区は断水となりました。



吉田浄水場の被害状況



吉田浄水場の配置図

宇和島市三間・吉田地区の断水は、応急復旧に長期間を要すると考えられましたが、関係省庁や東京都、民間企業、自衛隊、県警等の支援により、機器の早期納入や大型プラント（ろ過装置）の緊急輸送が実現し、工期が大幅に短縮されたことから、発災後約1か月で通水（三間地区8月3日、吉田地区8月4日）を開始し、その後、吉田地区が8月16日に、三間地区が9月12日に飲用水として利用可能となりました。



三間・吉田地区代替浄水施設

本復旧工事は、三間地区については、道路を隔てた近傍地に浄水施設を移設することとしており、また、吉田地区については、1.5m程度敷地の高い近傍地に浄水施設を移設することとしているところであり、両地区とも施設の早期完成に向けて、鋭意、工事が進められています。

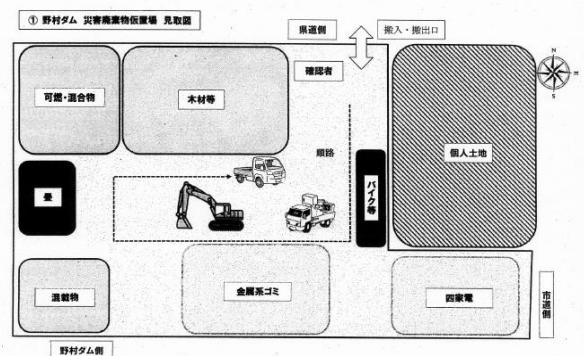
平成 30 年 7 月豪雨に係る災害廃棄物処理について

平成 30 年 7 月豪雨により、県内 14 市町で家財ごみや建物解体ごみ、廃棄物混入土砂等合わせて約 25.1 万トン（R 元. 6. 30 現在）の災害廃棄物が発生しました。

発災直後から被災地の懸命な御努力と県内はもとより全国からの御支援により、概ね順調に処理が進み、令和 2 年 3 月末までに仮置場の原状復旧を含めて完了する見込みです。県では、被災地の衛生環境の保全と早期の復旧・復興を図るため、災害廃棄物を処理する被災市町に対し、廃棄物の分別の徹底や搬出処理体制の整備等の助言、小規模自治体の廃棄物の広域処理、廃棄物監視業務への県職員の派遣等の支援を行ったほか、国に対し、処理事業の補助率の嵩上げや半壊家屋の解体費用への補助拡大について緊急要望を行い実現に結びつけるなど、被災市町の取組みの円滑化や負担軽減に取り組みました。

また、県との応援協定に基づき、（一社）えひめ産業廃棄物協会は、地域集積場の災害廃棄物の運搬・分別や、災害廃棄物の広域処理のための運搬を無償で行ったほか、（公社）愛媛県浄化槽協会は、被災した浄化槽の緊急点検や応急復旧作業を無償で実施しました。

※災害廃棄物仮置場の状況（宇和島市（上段）・西予市（中段）・大洲市（下段））



平成 30 年 7 月豪雨に係る自然公園施設の被災について

平成 30 年 7 月豪雨により、県内の 3 箇所国立自然公園施設が被災し、利用ができない状況になりました。

(1) 糸山園地の被災について

今治市の糸山園地は、来島海峡大橋やしまなみの多島美を見渡せることから、風景鑑賞を通じて気軽に自然に親しみ、健康増進やレクリエーション等憩いの場としても容易に親しめるよう、県が公園整備を行い、自然保護と適正な利用を推進しています。また、糸山園地の近隣にあるしまなみ海道は、国際サイクリング大会も開催される等、サイクリストの聖地として国内外からの観光客にも人気となっています。



発災当初の今治市の糸山園地（左：崩土により駐車場の一部が使えない 右：崩土により園路が崩壊）

平成 30 年 7 月豪雨により、糸山園地で崩土が発生し、一部駐車場と園路等の利用が出来なくなりました。そこで、公園を管理する今治市が崩土撤去と園路の通行制限を行い、また、県が復旧工事に必要な測量設計や復旧工事を実施することとしました。

現在は測量設計が完了し、復旧工事に取り掛かっており、令和 2 年 3 月末の完成を目指し鋭意努力している状況です。

(2) 近見山登山線（車道）の被災について

瀬戸内海国立公園にある近見山は、展望台から来島海峡大橋や瀬戸内海を見渡せることから、風景鑑賞を通じて気軽に自然に親しみ、健康増進やレクリエーション等憩いの場としても容易に親しめる公園整備を国、県、市で行いました。また、今治市や土地所有者、ボランティア等と、山林等を放置することなく、道路を利用して、清掃活動や荒廃箇所の修復等を継続的に行いながら協働で管理しています。

平成 30 年 7 月豪雨により、近見山の道路の県管理区間では路側が崩壊、また、環境省管理区間で



発災当初の近見山登山線(1)

崩土等の被災が発生しています。そこで、県と環境省が連携し復旧を行うこととしました。

現在は測量設計が完了し、それぞれ復旧工事に取り掛かっており、令和2年3月末の完成を目指し鋭意努力している状況です。

(3) 雪輪の滝園地について

足摺宇和海国立公園にある雪輪の滝園地は、日本屈指の清流を誇る四万十川源流部の一つで、約12km にわたり花崗岩の溪谷の中に滝や滑を有する滑床溪谷にあり、安全な利用ができるよう園路と休憩施設等を整備しています。雪輪の滝は、日本の滝100選にも選ばれ、また、最近では滑床溪谷キャニオニングなど、体で自然を満喫できるアクティビティが開催されるなど、観光客にも人気のある自然公園です。



発災当初の近見山登山線(2)



発災当初の雪輪の滝園地 調査状況写真

平成30年7月豪雨により、県が管理する園路が崩壊し、利用者の通行が出来なくなる等の被害は発生しました。平成31年2月末に工事契約を行い、令和元年9月に工事が完成し、利用が出来るようになりました。



雪輪の滝園地 完成写真

マイカップ普及啓発事業の実施について

3 R活動の中でも優先順位の高い2 R（リデュース・リユース）について、県民意識の向上を図り、廃棄物削減の取組みを進めるため、愛媛FCと協働して、本県における大規模スポーツイベントである集客力の高いホームゲームにおいて、来場者の使い捨てカップの使用を抑制し、マイカップの持参を促進するための普及啓発イベントを実施しました。



1 事業実施効果調査

来場者のマイカップ持参率、使い捨てカップの削減量などの活用効果やマイカップ・リユースカップ利用等の2 Rの取組に関する来場者の意識調査を実施しました。

○場所：ニンジニアスタジアム（松山市上野町乙46）

○実施日（3回）：平成30年7月15日（日）、7月21日（土）、8月4日（土）

2 普及啓発イベント

スタジアム敷地内の愛媛FCグッズショップ入口横にイベントブースを設置し、来場者の意識向上を図りました。

《イベントブース》

パネル及びカップの展示、クイズ及び愛媛FCマイカップの人気投票を実施しました。



《オーロラビジョン放映》

マイカップ等普及のための動画CM（15秒）を制作し、スタジアムのオーロラビジョンを活用して情報発信しました。



えひめの環境学習シンポジウムの開催

環境モデルプログラムの周知や県環境マイスターなどの環境学習実践者の指導力向上と一般県民の環境学習への関心を高めるため、環境活動団体等と連携して「えひめの環境学習シンポジウム」を開催しました。

環境学習プログラムについて理解を深めてもらう「トークセッション」と、本プログラムを体験する「体験会」の二部構成で実施し、第一部のトークセッションには、アルピニストの野口健氏や本県出身者を含むお笑いコンビ「和牛」を特別ゲストに招くなど、参加者が本プログラムに対する理解を深めるきっかけを提供することができました。

また、第二部の体験会は、フェアトレードをテーマとしたプログラム、マイントピア別子周辺でのESD環境学習ツアー、えんとつ山（生子山）での自然観察会の3つのプログラムを実施し、持続可能な開発について考える機会の提供や環境保全意識の向上を図りました。

○開催日 平成30年11月10日（土）

○場所 新居浜市あかがねミュージアム 外2会場

① 環境学習モデルプログラムの普及講演

- ・演題「持続可能な愛媛の暮らし」（トークセッション）
- ・講師 小林 修、山本 貴仁、竹内よし子、野口 健、和牛
- ・参加者数 181名

② 環境学習プログラム体験

プログラム名	フェアトレード・チョコを知って世界の環境を守ろう	新居浜・はでば・はてな ESDウォーク	自然観察会 ～森の移り変わり～
講師	小林 修	竹内 よし子	山本 貴仁
場所	ミュージアム内 創作スペース	マイントピア別子	えんとつ山 (生子山)
参加人数	24名	13名	21名



つなぐ生物多様性高校生チャレンジシップ

高校生ら若者の実践する生物多様性保全活動に脚光をあて、それを広く県民に周知することで、県民に生物多様性の必要性や、現在の危機的な状況を認識してもらい、これまで以上の生物多様性保全意識の向上を図るため、生物多様性保全の普及啓発イベントを開催しました。

県内5校及び県外3校の高校生による研究発表会、テレビでも活躍する気象予報士 森朗氏による基調講演「極端気象が日本の生物多様性に及ぼす影響」、とべ動物園 田村千明園長のトークショー、生物多様性の恵みである県内農林水産物を活用した試食、とべ動物園、面河山岳博物館のパネル展示など、参加者が楽しく愛媛の生物多様性についての知識を深める機会を創出し、県民総ぐるみで生物多様性保全に取り組む意識の向上を図りました。

参加した県内外8校の高校生は、イベント開催の翌日、生物多様性上重要な里地里山である東温市上林で里地里山が育む生物多様性について学び、意見交換を通じた交流を図りました。



えひめの生物多様性調査研究発表会



生物多様性保全のパネル展示



東温市上林地区で現地調査し将来の保全についての展望を報告する県内外の高校生

